【上関町】

校務ＤＸ計画

１　「校務ＤＸチェックリスト自己点検結果」を踏まえた取組について

現在、学校の教職員の事務は、一般的な学習指導や生徒指導だけでなく、調査や照会、学校運営に関する内部の事務など、多岐にわたるものとなっている。校務ＤＸ計画はそうした現状をデジタル化によって効率化し、教職員の負担軽減やそれによる教育活動の質の向上を目的としている。

（１）　ＦＡＸ・押印等の制度・慣行の見直し

町立学校の業務事務においては、多くの部分で紙媒体（要押印）でのやり取りやＦＡＸを用いた連絡を利用している。

今後は各学校のデジタル化を進めることで、連絡のやり取りをデータ上で行うものとし、業務事務の効率性、正確性を高めていくようにする。併せて、ＦＡＸや押印等の慣行についても見直しを検討し、教職員の負担軽減も努めるものとする。

（２）　統合型校務支援システムの運用

令和６年度から、上関町を含めた全ての県下の学校で、パブリッククラウド方式の統合型校務支援システムの運用を開始している。統合型校務支援システムによる共通の様式を使用することで、学校間での生徒情報のやり取りは効率化され、従来のように各校の様式に合わせて情報を手入力作業するといった不要な事務は排除されている。

こうした取り組みを学校間のやり取りだけでなく、児童生徒の進級に伴う年度更新作業でも浸透させていき、より一層教職員の負担軽減が行われることを目指していく。

（３）　クラウド環境の活用

町立学校の全ての教職員には、ネット通信可能な端末と校務用のGoogle、Microsoftアカウントをそれぞれ配布し、十分なクラウド環境を提供している。そのため、各学校ではクラスルームアプリ等を用いて課題の提出や学習活動を行っており、教職員だけでなく児童生徒もICTに関する技術を身に着けていっている。今後も利便性の高いアプリやクラウドサービスなどを学習現場に導入していき、町内の学習活動の効率化を図っていきたい。

また、そういった技術の発達は、情報セキュリティへの危険性も高まっていくことを意味しているため、現在、町内の各学校ではSNSを扱う上での注意事項を児童生徒に教育しており、セキュリティ意識の向上に努めている。また、市町教育委員会としても山口県教育庁や山口県警から紹介されたネットにおける事件、トラブルを学校にも伝え、教職員のネットに関する事件、事故が起きないように尽力している。

今後も安全、安心にＩＣＴを利活用できる環境を作るため、国の情報セキュリティ対策の動向や技術的な進展等も踏まえつつ、情報セキュリティポリシーの改正や学校への周知活動を行うようにしていく。